



東京都：皇居から日比谷・霞が関を望む

千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032

www.senju.com

©2023 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.

千住金属工業グループのCSR情報
www.senju.com/ja/csr/

メールアドレス
web@senju.com



SMIC CSR REPORT 2023

千住金属工業グループ CSR報告書

経営の理念

有用な製品を世に供給することで、 公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たな開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

故 佐藤千壽 名誉会長

社長在任期間 昭和35年 6月～昭和53年 6月
会長在任期間 昭和53年 7月～平成20年 5月
名誉会長在任期間 平成20年 6月～平成20年10月



撮影：千住スプリンクラー(株) 丸森工場

CONTENTS

経営の理念・目次・編集方針	01
トップメッセージ・マテリアリティ	03
SMICグループの目指す姿	05
私たちの生活を支えるSMICグループの製品	07

カーボンニュートラルに貢献する 低温ソルダーリングソリューション [MILATERA] 09

特集

すべての災害ゼロ実現に向けた 取り組み 13

特集

VUCA時代における SMICグループの安定供給の実現 19

環境	
環境ビジョン2050による ゼロエミッション社会実現への取り組み	21
環境	22

社会	
お客様とともに	27
購買先様とともに	28
従業員とともに	29
社会貢献活動	34

マネジメント	
ガバナンス	38
千住システムテクノロジー設立20周年	44
会社概要・ネットワーク	45

編集方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。本報告書はGRIスタンダードの要求項目に沿って制作し、取締役会によるレビューと承認を経たうえで、事業を通じて社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

対象期間	2022年1月1日～2022年12月31日 (一部2023年1月以降の情報も含まれます) ※2022年度からの会計期間の変更に伴い、当該レポートより上記の通りとなります。
対象範囲	主要関連会社一覧(P.46)に記載されているグループ会社25社 (非連結子会社と関連会社を含む。) ただし、社会貢献活動は別途個別に明記
対象変動	連結子会社の増加・減少はなし
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JAPIA・SEMI・東京経営者協会・商工会議所
発行履歴	今回：2023年 6月(前回：2022年 10月)
次回発行予定	2024年 6月
参考ガイドライン	GRIスタンダード・環境報告ガイドライン・ISO26000 ※GRIスタンダード対照表は弊社Webサイトに掲載予定です。

免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項および所信に基づく見込みです。また、報告書における算出方法や対象拠点、対象期間などの変更に伴う過去データの見直しにより、一部過去の開示データと異なる部分があります。千住金属工業およびその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで、直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任も負わないことをご了承ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語および中国語に訳した報告書も用意しております。日本語版と英語版・中国語版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご了承ください。



Resilience II

いかなる状況でも、
しなやかに誠実に
乗り越える

代表取締役社長

鈴木 重一

当社のマテリアリティ

ESG	マテリアリティ	重点テーマ	SDGs
E	気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動における省エネルギー化および再生可能エネルギーの使用 お客様のカーボンニュートラルを実現する環境配慮型製品の開発 副資材における再生可能資源の使用 	
	資源循環への対応	<ul style="list-style-type: none"> 使用済みになった自社はんた製品の回収およびリサイクルの推進 製造過程におけるはんた材料のリユース 	
S	CSR調達 (責任ある鉱物調達) の推進	<ul style="list-style-type: none"> 紛争やテロリズム、児童労働などの人権侵害に加担する個人や団体との取引の禁止 RMIの基準に則った鉱物の使用 	
	人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人材の育成 	
	働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ&インクルージョン (多様なライフスタイル・人材に対応した働きやすい職場環境づくり) 人権の尊重 (グローバルビジネスを展開するなかであらゆる文化・宗教への理解) 社内におけるDXの強化 労働安全衛生 	
G	Society5.0、DXの実現に向けた貢献	<ul style="list-style-type: none"> 5GやIoT、自動運転などを実現する、高信頼性製品の開発 顧客の先進技術への伴走、パートナーシップ、共創の強化 	
	安定供給の実現	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な感染症の拡大や、地震や台風などの自然災害への対策強化 BCP (事業継続計画) 体制の強化 複数社購買体制の強化 製造工場における自動化、IoT化 	
	知的財産、個人情報管理などのリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 特許侵害や技術流出などの知的財産リスクへの対策強化 情報セキュリティ対策の強化 自社、顧客、取引先の個人情報の保護 	

千住金属工業グループの2023年度CSRレポートをお届けいたします。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は収束を迎つつあるものの、国家間での戦争、政情不安による内戦や内紛、原材料価格の高騰、気候変動による災害激甚化といった問題が、社会経済へ大きな影響を及ぼしています。このような社会情勢を鑑み、今年のCSRレポートは、昨年の続きとして「Resilience II -いかなる状況でも、しなやかに誠実に乗り越える-」をテーマに、BCP体制と安全衛生にスポットを当てることといたしました。

お客様への供給責任を継続して果たすためのBCP体制の確立

昨年、COVID-19による上海市ロックダウンやマレーシアでの大雨による洪水で当社の製造拠点が被災し、お客様への供給が困難な状況になりましたが、世界中にある当社の製造拠点にて供給をカバーできるBCP体制があったため、大事には至りませんでした。今後このような事態になっても安心してお客様に供給できるよう、すべてのはんだ材料にお

けるBCP体制のより一層の強化と、水害や地震などの自然災害に対して、施設や社内インフラの改善などの防災対策強化を進めています。

従業員が安心して働くことができる職場づくり

安全衛生においては、防火対策として当社のグループ会社である千住スプリンクラーが開発した水道連結型スプリンクラーを国内製造拠点に配備し、万が一工場内で火災が発生しても従業員が安全に避難できる避難ルートとシステムの確立を進めています。

また、常に人がいなければいけない工場は労働災害発生率が高いとされていることから、製造設備の自動化やIoT化を行い、従業員の作業負担軽減と職場環境改善を図ることで、ヒューマンエラー防止による安全性向上を進めています。

サステナビリティに貢献するうえで大事な収益性

サプライチェーンやBCP、安全衛生など、事業活動における様々な問題に対して適切な対応を継続的に取り続けるには、それを実現可能とするだけの収益を確保しなければ成

し得ることができません。そのためには強固な収益基盤のもと、事業環境の変化に対してしなやかに対応できる企業であり続けることがサステナビリティへの貢献につながると考えています。

また、問題の対応に当たっては、事態や状況をきちんと把握したうえで、当社にとって有効な方法を見極めることが重要と考えています。周囲一般の情報を精査し、これまでの経験を生かしながら、自社に合った対応を講じていきます。これらの対応については、全社員に情報を共有し、その重要性について相互理解を図りながら進めてまいります。

カーボンニュートラルに貢献する低温ソルダーリングソリューション

「次の世代に何が残せるか？」 重金属を扱う製造会社として、私たちが考えなければいけない一番の課題です。世界で課題となっているエネルギー供給や地球温暖化に向き合うなかで、私たちは「低温化」をキーワードに事業活動を進めています。

錫ビスマス(Sn-Bi)組成の低温はんだは、現在一般的に使

われている鉛フリーはんだより融点が80℃も低く、融解に必要なエネルギーが少なく済むことでCO₂の排出も削減でき、さらに人体への毒性も非常に低いはんだ材料です。

このようなメリットの一方で、非常に硬くもろいため量産化が難しく、また低融点という特徴からドross(はんだの酸化物)が発生しやすいため、これまでははんだ付け装置による実装が非常に難しいとされてきました。

このような材料は、お客様が使いやすい形にし、かつ安定供給ができるようにしていくことが必要だと考え、材料・設備・工法のそれぞれにおいて、我が社の技術力を結集させ、低温はんだ使用時の問題点を乗り越えた、低温はんだ実装によるCO₂ 排出削減に貢献できるソリューション「MILATERA(ミラテラ)」を立ち上げました。

当社が次の世代に残していくもののひとつとして、公器としての役割を果たしていきたいと考えています。

千住金属工業グループは、皆様のニーズに応え、持続可能な社会を実現するための事業活動に今後も取り組んでまいります。今後とも、一層のご支援とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

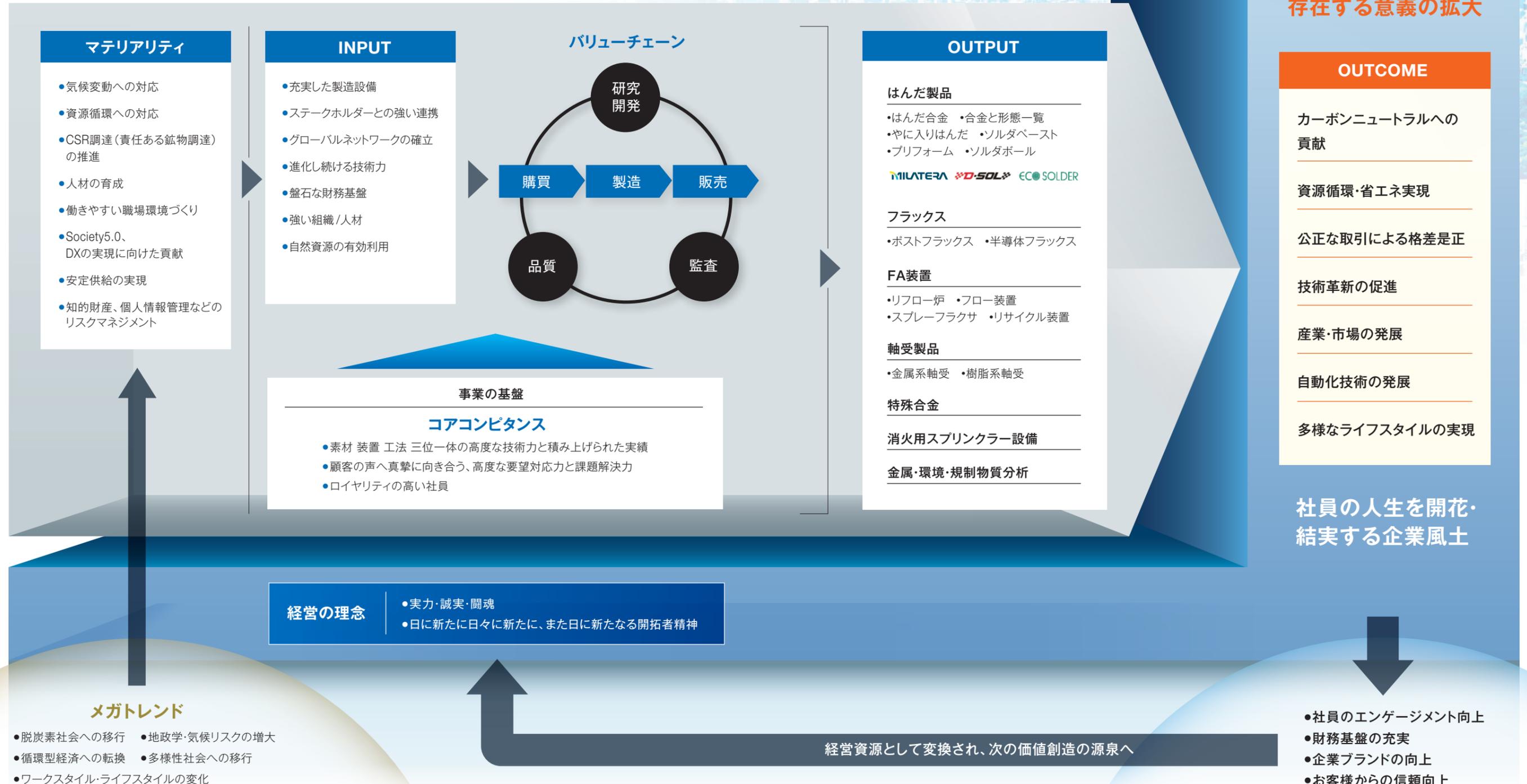
SMICグループの目指す姿

千住金属工業グループは、ESG（環境、社会、ガバナンス）に配慮したビジネス活動を展開し、高品質で信頼性の高い製品を提供しています。また、企業としての社会的責任を果たすため、従業員の健康と安全、地域社会との協働、社会貢献活動にも取り組んでいます。

持続可能な社会の実現を目指し、製造プロセスの見直しや、CO₂排出削減に貢献できる製品の製造販売など、事業活動を通して未来に貢献していきます。

持続可能な環境・社会・ガバナンスの実現
環境ビジョン2050の達成

SMICグループの事業活動



私たちの生活を支える SMICグループの製品

SMICグループの製品は、電子機器・モビリティなどの身近な製品から、風力発電機や基地局・鉄塔などの公共設備、そして人工衛星に至るまで、あらゆるところで使われ、私たちの暮らしを支えています。これからもSMICグループは、トータルソリューションで接合の未来を切り開き、社会に貢献していきます。



1

はんだ付け装置

プリント基板と電子部品のはんだ付け実装工程に、千住金属工業のはんだ付け装置が使われています。



棒はんだ

はんだ付け装置での基板実装に、千住金属工業の棒はんだが使われています。



2

プリフォームはんだ

自動車の車載装置に、千住金属工業のプリフォームはんだが使われています。



3

規制物質分析調査

EUのRoHS指令に代表される規制物質に関わる分析を、産業分析センターが行っています。



材料分析調査

各種材料・製品中に含まれる有害物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。

4

環境分析調査

水・大気・土壌に含まれる汚染物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



5

スプリンクラー

世界中の住宅・ビル・地下駐車場・公共施設などの消火設備に、千住スプリンクラーの消火用スプリンクラーが使われています。



6

特殊合金

水道鉄管の防腐表面処理に、千住金属工業の「亜鉛-スズ-マグネシウム合金」が使われています。



7

ボールはんだ、ペーストはんだ

スマートフォンやパソコンなどの電子機器や家電製品、太陽光パネルやLEDライト、風力発電機などに、千住金属工業のボールはんだ、ペーストはんだが使われています。



8

すべり軸受

自動車などのショックアブソーバーや建設機械の足回りに、千住金属工業のすべり軸受が使われています。



$\Delta t 80^{\circ}\text{C}$ が つなぐ未来へ

時代の移り変わりと共に変化するソルダリングのニーズ、
その答えが、SMICの低温ソルダリングソリューション「MILATERA」です。

材料・装置・工法の三位一体でお客様に提供する「MILATERA」。
従来より約80℃融点の低いはんだが低温実装を可能とします。
多くの負荷やコスト、また、サプライチェーン全体でのCO₂を削減することで
カーボンニュートラルの新たな選択肢となることでしょう。

SMICがめざすのは、モノづくりが人にも、環境にもやさしくなれる未来です。
80年以上の長い年月をかけて培った技術と情熱で、
未来を照らすパートナーとしてあらゆる可能性をつなげます。

温度を下げることで、減らせるものがある。
だからSMICの「MILATERA」は、未来にプラスになるマイナス。
その実現を支えてくれるお客様や仲間のあたたかさが、地球の温度を下げている。
届けたいのは、企業と社会の未来を明るく照らす、次世代の実装技術です。

Solution
01

低温ウェーブはんだ付け工法

基板実装工程 (SCOPE2) でのCO₂の削減効果
2022年に世界で初めて工法として確立

ウェーブはんだ付け装置とポストフラックスを新たに開発し、低温ウェーブはんだ付け工法の量産化を世界で初めて確立。修正用のやに入りはんだも世界初の製品化を実現。パナソニック株式会社様の炊飯器で採用。



はんだ付け
装置開発

ポストフラックス
開発

やに入り
はんだ開発

Solution
02

低温リフローはんだ付け工法

基板実装工程 (SCOPE2) でのCO₂の削減効果
熱に弱い部品や基板でも使用が広がる

はんだ合金は耐熱疲労性や耐落下に優れた製品を開発。ペースト用フラックスはハロゲンフリータイプや熱硬化性樹脂タイプなど多くの製品をラインアップ。レノボ・コーポレーション様のラップトップPCやパナソニック株式会社様のカメラモジュール、洗濯機など多くの企業で採用。



はんだ
合金開発

ペースト用
フラックス開発

はんだ付け
装置開発

Solution
03

低温はんだ付け材料

ライフサイクルアセスメントで見た
探鉱から精錬までのSCOPE3でもCO₂削減へ

ライフサイクルアセスメント (LCA) での持続可能性が求められるようになってきました。お客様から見てSCOPE3に該当する、探鉱から金属精錬までのはんだ原材料の工程でも低温はんだによるCO₂削減が期待できます。硬くて脆いスズ・ビスマスはんだですが、当社ではさまざまな形態で製品を提供しています。



すべての災害ゼロ 実現に向けた取り組み

千住金属工業グループは、休業災害のみならず不労災害も含めて、一切の労働災害を許さない“災害ゼロ”を目標に掲げ、安全衛生に取り組んでいます。

「安全衛生」における当社の考え方 **P.30** 参照(労働安全衛生)

安全衛生に対する従業員の意識向上や機械設備の安全技術の進歩など、これまで長年取り組んできた成果により、休業につながるような重大害が減少し、近年は僅少です。しかし、近年増加している転倒や軽い怪我などの不労災害であっても同様に受け止め、万が一発生した場合は原因把握・分析のうえ対策を講じ、再発防止に努めています。当社は「どんなに小さな災害も引き起こしてはならない」という考えのもと、従業員の安全と健康を第一に取り組んでいます。

安全管理に向けた取り組み

安全衛生管理体制 **P.30** 参照

当社は法令に則り、事業所の規模に応じて安全衛生管理体制を敷いています。常時300人以上の従業員がいる事業所の体制は右図の通りとなります。総括安全衛生管理者である事業所長は、安全衛生委員会の委員長として業務の統轄管理をしています。安全管理者および衛生管理者は、一定の資格を有する者のうちから選任しています。



危険を未然に防止する活動

危険度分析と評価

ヒヤリハット活動（ヒヤリやハットした体験に対し、危険回避の方法を事前に取り組む）や危険予知（KY）活動（作業開始前に危険を見つけ、事前回避する取り組み）によってリスクを除去・低減してきたことにより、重大災害にあたる件数は大きく減少しました。現在はリスクアセスメントを中心に、リスク低減に取り組んでいます。

リスクアセスメントの実施

各職場における危険性・有害性を特定し、それによる労働災害の程度とその災害が発生する可能性の度合いからリスクを見積り、優先度を決めています。リスクが除去又は低減されるまで対策の検討・実施・記録を繰り返しています。

〈例〉

危険源(ハザード)	程度	可能性	リスクLv
階段で躓きそうになった	2	2	II
指を挟まれそうになった	5	3	IV

無災害・誓いの門

栃木事業所松山工場の駐車場に面した通用口に「無災害・誓いの門」を設置しています。門には、無災害記録日数とともに「この門を通ることにより私は安全と健康を誓います」「安全作業への入り口・今日もご安全に!」と掲示することで、社員の安全意識向上に努めています。



+ 取り組みPICK UP

✓ 安全の集い

安全衛生委員会の定例会議の他に、社員の安全衛生への理解を深めるため年3回、安全の集いを開催しています。毎回テーマを決め、安全の情報交換の場として企画し、安全衛生に関する意識向上と、維持に役立てています。



安全衛生委員会定例会議の様子(本社)

救命講習の実施 **P.15** 参照 (AEDの設置)

各部署から受講者を募集し、消防庁主催の救命講習を定期的に行っています。本社は、昨年11月に千住消防署より感謝状を授与されました。



✓ 職場の健康管理

- 健康診断二次検査の受診費負担
- インフルエンザ出張予防接種 (本社・栃木事業所・草加事業所)



● 作業環境測定

作業環境測定士がサンプリングを行い、全体的な作業環境に問題がないか測定しています。



✓ 非常事態発生時の避難経路の整備

スプリンクラー・ファイアイレイスの自主設置 **P.16** 参照

栃木事業所松山工場内の一部では避難経路沿いおよび溶解炉のあるエリアに水道連結型のスプリンクラーを設置しました。また、産業分析センターではドラフトチャンバー5か所にファイアイレイス(消火剤)を設置。他拠点へも同様の設置を検討しています。



非常口ドアの改修 **P.16** 参照

従業員が災害時に安全かつ速やかに避難できるようにRBA(Responsible Business Alliance)の基準に則り、建屋の非常口をワンアクションで開けられるドアに改修しています。2023年5月時点で千住金属工業本社および国内事業所・国内関連子会社の改修が完了しています。



握り玉タイプ

レバータイプ

安全対策と衛生管理の取り組み

① 熱中症対策

一例

- 保冷剤



② 自動化・ロボット化

一例

- AGV(無人搬送車)
- はんだピレット自動製造ロボット
- 取り出しロボット
- 自動梱包ロボット



③ 安全巡回

毎月、安全衛生委員が各職場の安全巡回を実施。不安全箇所や行動の懸念事項を指摘し、是正されるまでフォローアップを行う。

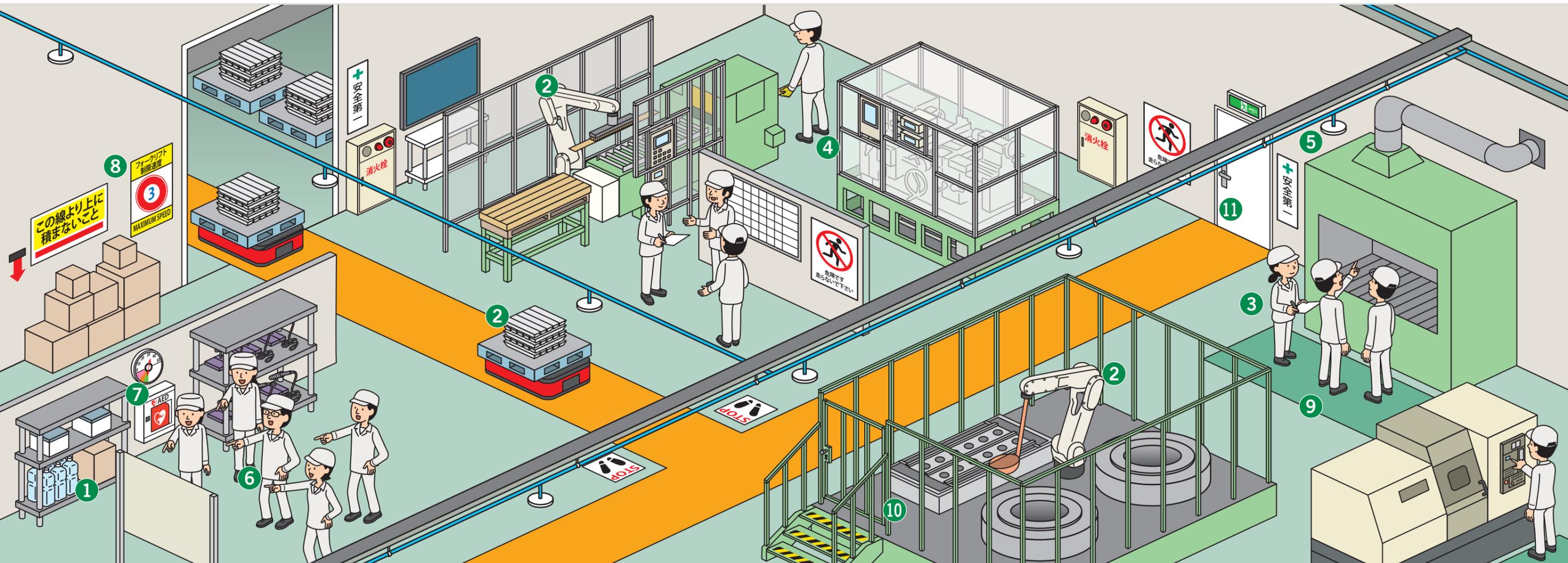


④ 安全検収

新規および改修設備は使用前に安全性を確認し評価。危険が生じる恐れのある場合、物理的防御、インターロック、安全制御装置を設置。



⑤ スプリンクラー・ファイアイレイスの自主設置



⑥ 安全コール唱和



女性社員を対象としたAED講習会

⑦ AEDの設置

消防署ご協力のもと、AED操作方法と心肺蘇生法についての救命講習を定期的実施。

⑧ 安全標識



⑨ 個人用保護具

一例

- 安全靴
- 保護マスク



⑩ 転倒防止

一例

- 手摺り
- 階段滑り止め
- 転倒注意テント
- 注意喚起



⑪ 非常口ドアの改修



Safety & Health

全員が安心して働ける職場を目指して

千住金属工業は事業所ごとに安全衛生委員会を設け、それぞれの委員会が中心となって安全衛生に取り組んでいます。今回は、各事業所で中核となって推進している3名が集まり、これからの安全衛生について語りました。



安全衛生委員
Leader's Talk

草加事業所
副委員長
FA製造部
生産課 課長
山岸 伸治

栃木事業所(松山工場)
衛生管理者
栃木管理部
総務課 課長
江川 昌子

関西事業所
安全管理者
西脇工場
関西生産管理課 課長代理
山崎 浩史

多様性を生かした各事業所の特徴

江川 栃木事業所の安全衛生委員会は、各部署の職場リーダー以上で構成しています。安全巡回中、危険と見られる場面に遭遇した際、その場で制止する必要がありますので、一定の

権限を持った立場であることとしています。私を含め女性が多名かいますが、例えば疲労軽減マットや背丈に合わせた作業台の設置などは女性の意見が生かされています。また、性別に関わらず、異性に対するAEDの使用に抵抗があるとの声から、2023年は女性を対象としたAED講習会を実施しました。



「様々な視点を生かし
現場に合った
対策をしています」

山岸 草加事業所でも、栃木事業所と同様に安全衛生委員は職場リーダー以上で選任しています。安全巡回では、自分の職場以外をチェックすることで、見慣れていない場所で感じる危険箇所を発見し、対策や改善に取り組むことが有効的に働いています。また、事業所の規模が大きいからこそ、様々な人の意見を聞くようにしており、清掃用品の充実やトイレの音漏れ対策などの衛生に関わることも、働きやすい職場につながるよう取り組んでいます。

山崎 関西事業所では、以前は人数が少ないということもあり、同じ人がずっと安全衛生委員を担当していたのですが、最近は事業所の人員が増加したので、各職場・各部署から最低1名を選任するようにしています。中途社員にも積極的に

携わってもらい、前職の事例や経験を参考に現場に合ったやり方に対策することで様々な視点を活かしています。

労働災害の傾向と対策

江川 30年程前の労働災害(以下、労災)では「挟まれ」や「火傷」が多数を占めていました。昨今は大きな災害が減り、「転倒」による労災が増えています。リスクアセスメントを活用し、年々進化させることで、被害やリスクを最小限に抑制できるようにしています。また、身体的な怪我に加え精神疾患の予防も外せません。その例として、ストレスチェック制度は、現代社会を反映した取り組みだと感じています。

山岸 草加事業所でも近年は、作業中ではなく、階段の昇降や移動・通勤時の「転倒」割合が増えていますね。そのため階段の一段飛ばしや小走りに対しても、注意喚起を行っています。一人ひとりが安全意識を持つことで、労災防止につながると思いますので、繰り返し周知していくことは大事ですね。また、草加事業所は、取引先から安全に対するアナウンスやご提案を頂きますので、第三者の視点も参考にさせていただき、取り組んでいます。



「一人ひとりが
安全意識を
持つことが重要です」

山崎 関西事業所では、他事業所の取り組みや、労災時の対応策を参考にしています。労災が発生した際はすぐに職場リーダー以上に連絡され、同様の危険箇所があれば、即時対策を講じるようにしています。また安全衛生委員長である事業所長から、常に様々な場面で安全衛生に関するアナウンスがあり、社員の意識向上につながっていると感じています。現在のところ重大災害は発生していませんが、私も一人ひとりへの意識付けは重要と考えています。



「健康で安全に
働き続けて
もらいたいと
思っています」

労働災害を許さない“災害ゼロ”を目指して

山岸 労災は、意識が薄れたときに発生してしまうことが多いです。経験者は二度と同じ目に遭わないようにと意識付けられていますが、新入社員など未経験者に意識を持ってもらうのが課題です。注意喚起や定期的な周知活動は継続することのひとつですね。安全の見える化に取り組み、すべての労働災害発生ゼロを目指しています。

山崎 従業員が増え、各拠点で様々な業務を行っているため、労災のケースも変化し、広がっています。最近では“歩きスマホ”をよく目にするようになり、そのような行為が労災につながる恐れがあるということに注意喚起し、一人ひとり意識を持ってもらう必要があります。また、他拠点の取り組みを参考に取り入れた対策をさらに別の拠点に情報共有するなど、各事業所との委員会のつながりをさらに有効活用していきたいです。

江川 定年が引き上げられ、働く年数は長くなります。そのため、健康で安全に働き続けてもらい、元気に退職を迎えてほしいと考えています。現在、若年層の方でも将来につながる事なので、長く働ける職場づくりを推進したいです。また、昨今は設備や道具から「身体を守る」ことに加え、人と人の「心を守る」ことも重要になっています。だからこそ全員が安全衛生に関わってきます。一人ひとりが主人公であり、みんなが取り組むことであることを根付かせていきたいですね。

一同 ありがとうございました。

AMERICA

サンノゼ

シカゴ

欧米

US:サンノゼ・シカゴ チェコ:ブラハ

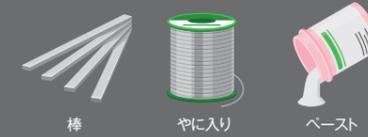


EUROPA

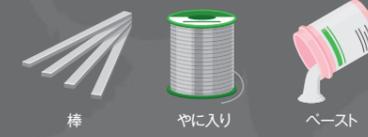
ブラハ

アジア

天津・上海・惠州・香港



韓国・台湾・フィリピン・タイ・マレーシア



JAPAN

天津

上海

韓国

香港

台湾

惠州

タイ

フィリピン

ASIA

マレーシア

日本



兵庫:西脇市・多可町



岩手:一関市

宮崎:宮崎市

愛知:瀬戸市
兵庫:姫路市
福岡:大野城市



富山:富山市



特集

VUCA時代における SMICグループの 安定供給の実現

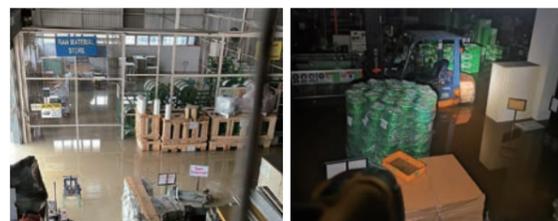
ここ数年、COVID-19を始め、地震や気候変動による自然災害、紛争といった問題が多発しているなか、製造企業には製品を安定的に供給できるBCP体制の確立が求められています。

SMICグループでは、お客様への安定供給を盤石なものにするため、日本国内はもとより世界各地のお客様に安定供給できる体制を整えてきました。2022年は、水害や都市ロックダウンにより海外グループ会社での製造が困難となる事態に直面しましたが、整備してきた体制により、お客様へ供給を継続することができました。万が一の不測の事態においても、お客様への供給責任を果たせるようBCPを運用しています。

環境変化への対応力

1 マレーシア豪雨 (2021年12月)

2021年12月18日、マレーシアの広い地域で豪雨が3日間続き、「数百年に一度」とも評される大規模な洪水が発生しました。SMICマレーシアがあるセラングール州でも通常の1カ月分の降水量に相当する雨が1日で降り、水路が氾濫したことによる建物の浸水被害がありました。SMICマレーシアの工場内も約60cmの浸水により、製造設備や製品、原材料などに甚大な被害があり、製品によっては5カ月間、生産およびお客様への供給ができないうちに陥りました。そこで、お客様への供給責任を果たすために、即座に日本とアジア圏の製造拠点からの供給体制に切り替え対応しました。



2021年12月 浸水被害の様子



SMICフィリピン

SMICタイ

2 ロックダウン (2022年4月)

2022年4月、中国・上海市がCOVID-19感染拡大によりロックダウン(都市封鎖)しました。ロックダウンは約2カ月におよび、市民は住居から外出することが禁じられました。SMIC上海の従業員も出勤ができないうちに、お客様やサプライヤーとのやり取りが困難な状況であるとともに、工場も稼働できない状況に陥りました。そこでお客様への供給責任を果たすために、即座に日本と中国各地の製造拠点からの供給体制に切り替え対応しました。



千住金属工業 栃木事業所

SMIC惠州

SMIC香港

環境ビジョン2050による ゼロエミッション社会実現 への取り組み

千住金属工業グループは、地球温暖化・酸性雨・土壌汚染、水質汚濁などの地球環境問題に取り組むことが、人類の生存基盤に深く関わる重要な課題であり、人類共通の使命であることを認識しています。事業活動を通じたゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献します。

環境ビジョン2050

3つの社会の実現を目指して

1 低炭素社会の実現

温室効果ガスゼロ社会への挑戦

企業活動における省エネルギー化の推進

2 循環型社会の実現

資源循環による地球資源の保護

3 自然共生社会の実現

生物多様性の保全と、環境リスクのある有害な化学物質使用ゼロ社会への挑戦

第二次環境プラン

(2020年度～2030年度)

カーボンニュートラルに向けた取り組み

2013年度のCO₂排出量(17,328t-CO₂)の25%分を2030年度までに削減

製品リサイクル推進

3R※材料を100%使用した製品の開発

有害性化学物質の使用量ゼロ

人体と環境に影響を及ぼす化学物質の使用量ゼロ

生物多様性の保全

環境保護活動による生物多様性の保全

※3R=Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)



環境



環境方針

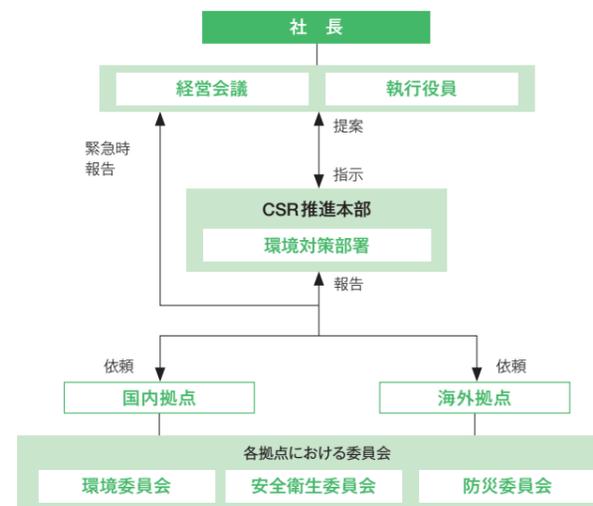
環境理念

千住金属工業グループは、地球環境保全が人類共通の使命であると認識しています。この使命のもと、持続可能な社会の実現に向けて、地球環境と事業活動との調和を図り、豊かな自然と多様な生態系を守ることに全力を尽くします。

● 環境管理体制

千住金属工業グループでは、地球環境への負荷を軽減するために必要な措置を講ずる組織として環境委員会を設け、公害防止や環境保全に関する計画の策定、計画実施についての審議などを毎月行っています。また、経営会議で毎年環境のリスクと機会を特定し、それに基づいた環境活動方針を定めています。

環境体制図



● 環境マネジメントシステム

千住金属工業グループでは、環境活動の指針となる環境理念と環境方針を定めています。国内・海外の計17拠点でISO14001を取得し、それに基づいて環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルを回しています。

また、環境に関する重点テーマ4項目(温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動)について、国内・海外の各拠点・各部署が毎年目標と行動計画を定め、環境負荷低減に向けた活動を推進しています。

● 環境リスク

千住金属工業グループでは、気候変動問題や廃棄物による汚染など様々な環境リスクを把握し、環境事故・汚染事故の未然防止のために厳しい自主管理基準を定め、対策を行い運用しています。また、緊急事態が発生した場合に備え、被害を最小化するために緊急事態対応訓練を年1回行っています。

2022年度は環境事故・汚染事故は発生していません。今後も環境事故防止対策を継続していきます。

● 環境教育

従業員の環境への意識向上と環境マネジメントシステムの維持向上のために、環境一般教育(年1回)、ISO14001教育(随時)、廃棄物管理教育(随時)、緊急事態対応教育(緊急事態対応訓練時)などの環境教育を実施しています。

● 環境監査

環境関係の測定や届出が確実に実施され問題がなかったか、法令で必要な対応が十分に取られているかを確認する環境法令順守評価を年2回、ISO14001の有効性を確認する内部監査を年1回、順守評価者や関係部署長が実施しています。

TOPICS

パナソニック ECO・VC表彰 銀賞受賞

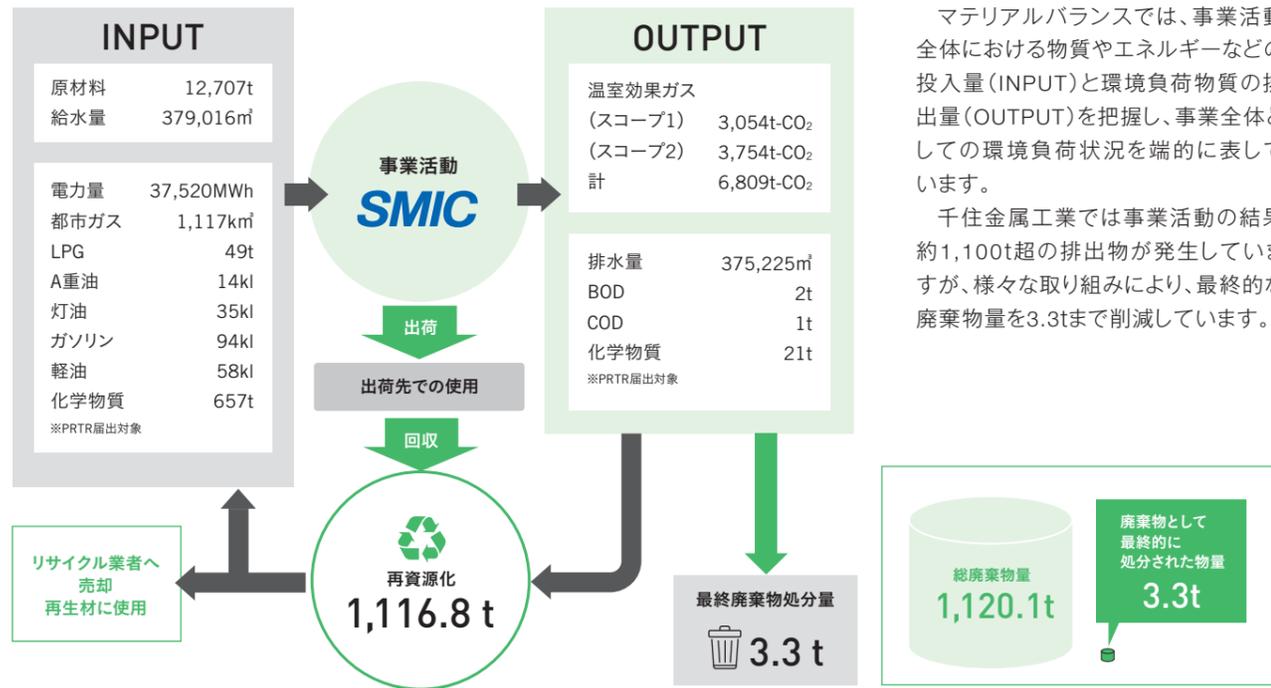
パナソニックグループ様の調達活動である「ECO・VC活動」に、当社のカーボンニュートラル実現に貢献可能な製品である、「Pbフリー低融点Sn-Biはんだペースト」を応募し、応募総数264件中4位に入賞、銀賞を受賞しました。

メーカーではんだ製品製造工程(スコープ3)と、パナソニック様での製品製造工程(スコープ2)の双方でCO₂削減につながる製品であることと、既存の生産プロセスの活用など展開性がある点を評価いただきました。





● 環境負荷マテリアルバランス



マテリアルバランスでは、事業活動全体における物質やエネルギーなどの投入量 (INPUT) と環境負荷物質の排出量 (OUTPUT) を把握し、事業全体としての環境負荷状況を端的に表しています。

千住金属工業では事業活動の結果約1,100t超の排出物が発生していますが、様々な取り組みにより、最終的な廃棄物量を3.3tまで削減しています。

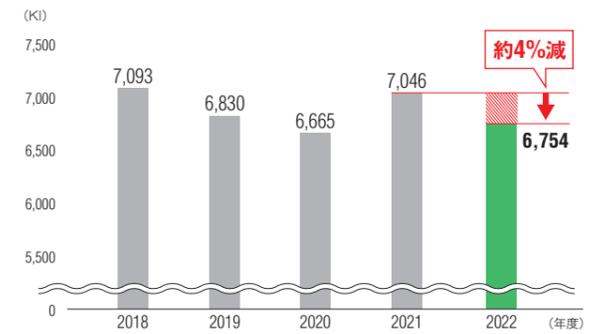
● 温室効果ガス排出量の削減 (スコープ1、スコープ2)

千住金属工業グループでは、製造工場における作業効率の改善や空調機・変圧器などの機器更新、オフィス・製造工場における照明のLED化など、企業活動の省エネルギー化のための活動を推進しております。2022年度は前年に引き続き事業活動が活発でしたが、当該活動の推進によりエネルギー使用量が約4%の削減となりました。

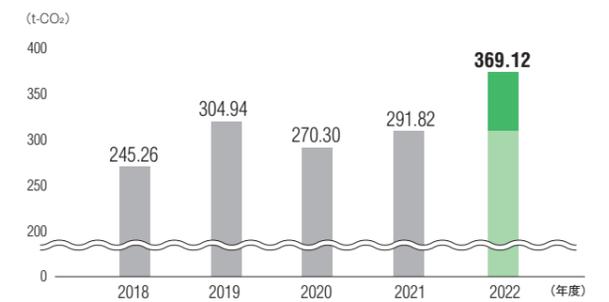
改善内容 (栃木事業所)	年間電力削減予測効果 (t-CO ₂ /年)
ファンモーターへの進相コンデンサ設置	14.2
エアークOMPレッサの機種変更	2.38
照明LED化	11.38
ガスボイラーの運転見直し	90.62

※2022年度数値

エネルギー使用量



温室効果ガス削減量 実績



温室効果ガス削減

基本方針

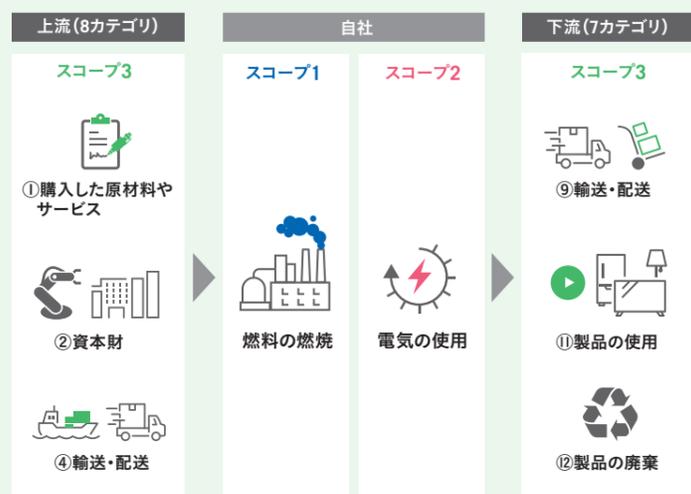
千住金属工業グループでは、地球温暖化の防止・緩和のために、事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視・計測することで、エネルギー使用量と温室効果ガス排出量を把握し、省エネルギー化およびCO₂排出量削減活動を推進しています。

CO₂排出量算出の仕組み

CO₂の排出削減活動を行っていくに当たり、正確に活動状況を評価するために、現在の自社の排出量を正確に把握する必要があります。

ここで用いるのが、スコープという視点です。GHGプロトコルという国際基準によって規定されており、排出量を測定する範囲によって3種類に分類しています。

- スコープ1**
自社での燃料の使用。(例:自家発電→重油などの燃焼、車の使用→ガソリン・軽油の燃焼)
- スコープ2**
自社が購入した電気・熱などのエネルギーの使用に伴う間接的な排出。(例:電力会社の電気使用)
- スコープ3**
スコープ1、2以外の原材料調達・物流・販売などバリューチェーンで発生する自社の事業活動に関連した他社の排出。15のカテゴリに分類される。

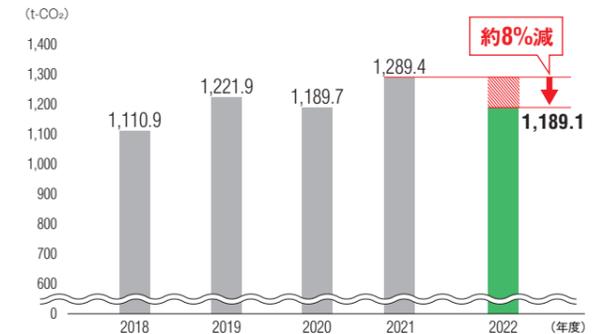


● 温室効果ガス排出量の削減 (スコープ3)

千住金属工業グループでは、国内貨物の年間委託輸送量を製品の 카테고리 別に輸送区間と距離から算出し、スコープ3の輸送・配送における排出量としてCDPへ報告しています。2022年度は前年度同様に事業活動が活発でしたが、トラック便の集約など、効率化の努力を継続した結果、排出量で約8%の削減となりました。

2023年度にはスコープ3全体の集計を計画しており、サプライチェーン全体での排出量把握を行います。

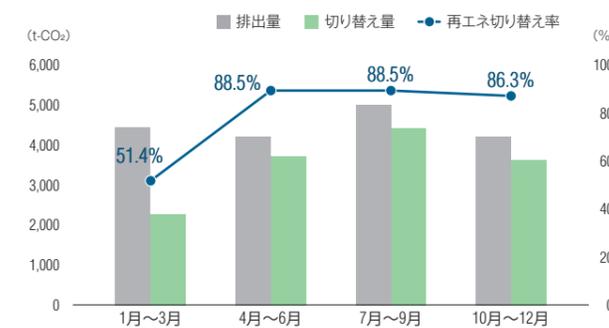
CO₂排出量



● 再生可能エネルギー電力への切り替え (スコープ2)

千住金属工業グループでは、再生可能エネルギー由来電力への切り替えを推進しています。製造拠点を中心に切り替えを進めており、2022年第4四半期では8割超の購入電力を、再生可能エネルギー電力に切り替えました。残る製造拠点と営業拠点での切り替えを引き続き推進し、さらなるCO₂排出量の削減に取り組みます。

2022年国内拠点 再生エネルギー切り替え状況



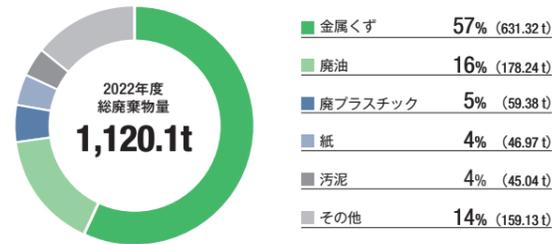
廃棄物削減・リサイクル

基本方針

千住金属工業グループでは、3R（廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化）の考え方を基本に廃棄物削減・リサイクル活動を推進しています。

● 廃棄物排出量削減の取り組み

国内拠点 廃棄物量の内訳



千住金属工業グループでは、2013年から廃棄物排出量削減の取り組みとして、はんだリサイクルやプラスチック副資材の回収、軸受製品のスクラップ再生などを実施しています。2016年度以降、99%を超えるリサイクル率を毎年達成しています。

● 海外拠点データと取り組み

千住金属工業グループの海外拠点においては、国内拠点と同様、環境に関する重点テーマ4項目（温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動）に基づいた環境活動を推進しており、製品容器や梱包材の回収とリサイクル、製造設備の稼働管理による電力使用量削減などを行っています。各海外拠点と年1回ミーティングを行い、年度計画および取り組みを把握し、各地域や状況に応じた環境保全への取り組みを促進しています。

● 廃棄物削減の取り組み事例

SMIC上海：入荷時梱包材の再利用

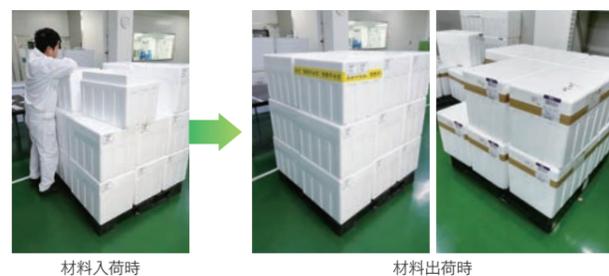
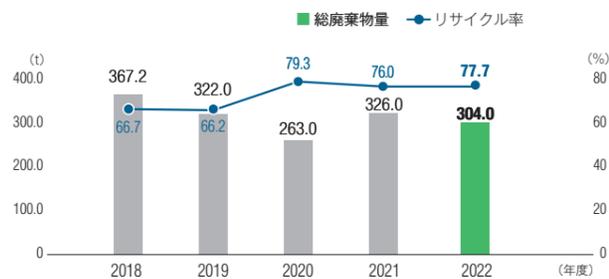
材料入荷時に使用されている発泡スチロール製梱包箱を、製品出荷時に再利用する活動を実施しています。2022年10月～12月の3カ月間で、404箱の再利用を達成しており、引き続き取り組みを促進していきます。

国内拠点 総廃棄物量とリサイクル率の推移



最終的に廃棄物となった0.3%には、ビン、コンクリートくず、砥石くずが含まれます。当該品目を取り扱うリサイクル業者の選定を進め、さらなるリサイクル率向上を目指します。

海外拠点 総廃棄物量とリサイクル率

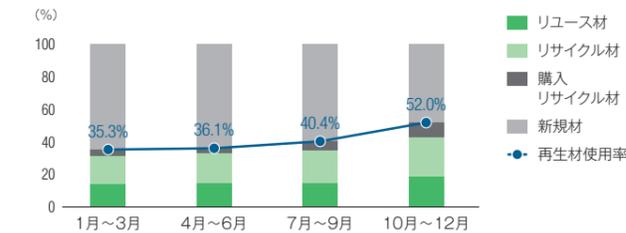


● 千住金属工業グループのはんだリサイクルシステム

千住金属工業グループでは、約40年前から関連会社である株式会社高橋合金と連携し、はんだリサイクルに努めてきました。2000年代に登場した鉛フリーはんだにより、はんだはそれまでのスズ・鉛の二元素からスズ・銀・銅の三元素の時代に入り、現在ではさらに多元素化が進みました。それに伴い、はんだのリサイクルも多元素に対応した設備が求められるようになり、有害物質の発生を極限まで抑制した特殊技術と、独自の精錬方法により高純度のはんだを再生できる、はんだリサイクルシステムを開発しました。昨今、はんだリサイクルの重要度が年々増しており、ここ数年でリサイクル量も倍増し、今後も増え続ける見通しです。

千住金属工業グループでは、鉛リサイクルがまだ一般的でない時代から、材料メーカーとして「つくる責任」を果たしてきました。これからも、限りある鉛資源の有効活用・大気汚染抑制といったサステナブルな社会の実現のため、使用済みとなった自社はんだ製品を自ら回収しリサイクルするシステムのさらなる発展と、さらに多元素化していくはんだのリサイクル実現に向け、積極的に人的資源や技術への投資を推進していきます。

再生材使用率



有害性化学物質の削減

基本方針

人の健康や環境の保護など安心で安全な社会生活を実現していくため、開発・購買・製造・環境部門は環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。特に、環境負荷の大きな化学物質については、使用量削減や使用禁止など、計画に沿って実行しています。また、削減目標を毎年定め、重点的に取り組んでいます。

● PRTR法指定化学物質の排出・移動量

千住金属工業グループでは、PRTR法に則り、該当物質の取扱量、排出量、移動量の把握に努めています。

PRTR法指定化学物質の排出・移動量の推移



● 土壌・地下水の汚染対策

千住金属工業グループでは、土壌・地下水の汚染対策のため、下記の取り組みを行っています。

また、緊急事態対応訓練や汚染水の流出防止のためのリスク教育などを行い、汚染防止に努めています。

土壌	自主的な成分分析(年1回実施)
水質・地下水	最終排水口と地下水の点検(残留塩素、pHなど、毎日実施) 排水と地下水の成分分析・測定(毎月実施)
雨水	自主的な成分分析(年2回実施)



お客様とともに



製品の品質・安全確保

基本方針

千住金属工業グループは、「品質・安全性方針」を定め、お客様に安心して製品をお使いいただくために、製品のライフサイクルを通じて品質の向上に取り組んでいます。

品質・安全性方針

- 1 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の上昇を図ります。
- 2 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
- 3 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに、定期的にも必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会（間隔、頻度、場面）についての評価も行います。
- 4 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

● 品質マネジメントシステム認証取得

千住金属工業グループ(国内・海外)の製造拠点において、下記の国際規格を取得しています。

- ISO9001 (21拠点) ● IATF16949 (17拠点)

● 品質向上への取り組み

千住金属工業グループでは、納入・工程・受入における不具合をなくすために、年間の品質活動計画を策定し、各部門が目標設定し不具合の削減に取り組んでいます。不具合が発生した場合は再発防止対策をまとめ、分析結果を次年度の改善計画に落とし込み、継続的にPDCAサイクルを回すことで品質改善を行っています。グループ全体の品質レベル向上を目的に、優れた成果をあげた海外工場へ品質優秀表彰を行っています。

● 製品含有化学物質管理

人体や環境の保護などを目的とした欧州の化学物質規制法であるRoHS指令とREACH規則に対応するため、環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。専属者によるチーム体制を敷き、当社製品に関する化学物質調査の対応をしています。

REACH規則においては、取り扱う化学物質の本登録を完了しており、購買先様からのSDSを入手し、第31条および第32条に基づきお客様へ情報を伝達しています。また、GHS「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」に適合した、SDS・GHSラベルをお客様に提供しています。

● 品質監査

千住金属工業グループでは、グループ会社を含む国内製造拠点と営業拠点において、IATF16949認証に基づく内部品質監査を、はんだ部門と軸受部門で各々年2回行っています。さらに、国内と海外のすべての製造拠点を対象に、定期品質監査を年1回行っています。また、Web監査用カメラを準備し、リモートによる工程監査も実施しました。

● 品質不正の防止

千住金属工業グループでは品質不正防止のため、1972年に関連会社である産業分析センターを設立し、一般的に自社で行う検査・分析工程を第三者機関である産業分析センターが行っています。その分析結果を基に合否判定することにより、検査工程における不正や偽装を防いでいます。

● CS向上への取り組み

千住金属工業グループでは、CS(顧客満足度)向上に努めています。お客様への提案や共同開発、技術セミナーや技術交流会、営業活動や技術革新の向上に励んでいます。それらをお客様に評価いただき、2022年度は下記の賞をいただきました。



- 1 Intel Corporation EPIC Outstanding Supplier Award
- 2 TDK ラムダ株式会社 優秀サプライヤー賞



購買先様とともに



調達活動

基本方針

千住金属工業グループは、調達に関する法令と経済産業省の自動車産業適正取引ガイドラインを遵守し、購買方針としての基本姿勢(購買先様に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達を行う)と、購買先様との調達におけるCSR調達方針を定めています。また、購買先様に求める基本姿勢として、IATF16949・ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメントのガイドラインを参考に、法令・社会規範の遵守や緊急事態発生時の事業継続と復旧計画の推進など14項目をお願いしています。調達を通じた社会への貢献と、購買先様との良い関係の構築のため、今後も調達コンプライアンスを遵守し、安心して安全なサプライチェーンの確立に取り組んでいきます。

● CSR調達方針

- 1 千住金属工業株式会社「品質・安全性方針」
- 2 千住金属工業株式会社「環境方針」
- 3 千住金属工業株式会社「購買方針」
- 4 千住金属工業株式会社「購買先様に求める基本姿勢」
- 5 納入品に対して配慮いただきたいIATF16949の要求事項
- 6 納入品に対して配慮いただきたい環境管理上の要望事項

● 購買先様に求める基本姿勢

- 1 法令・社会規範の遵守
- 2 人権・労働への配慮
- 3 安全衛生への配慮
- 4 贈収賄の禁止と公正取引
- 5 健全な事業経営
- 6 品質・納期・安定供給の提供
- 7 非常事態への備えと事業継続
- 8 環境への配慮
- 9 責任ある鉱物調達の推進
- 10 VE (Value Engineering) 活動の重視
- 11 情報提供の重視
- 12 情報セキュリティ
- 13 反社会的勢力との関係排除
- 14 社会貢献

● CSR調達への取り組み

千住金属工業グループでは、調達部門および関連のある開発・製造部門が、年間計画に従い国内外の購買先様への監査を実施しています。2022年度も、国内外の購買先様にサプライチェーン・アセスメントにご協力いただき、問題のないことを確認しました。

また、COVID-19禍においては、購買先様とWebでのミーティングを行い、コミュニケーションの活性化に努めています。



● 責任ある鉱物調達への取り組み

2011年1月にRBA (Responsible Business Alliance) に加盟し、電子業界のお客様と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI (Responsible Minerals Initiative) 会員として、製錬所に対しRMAP (Responsible Minerals Assurance Process) の受審と第三者認証取得を積極的に働きかけ、2015年2月に調達先の製錬所がすべてRMAP認定されています。

「責任ある鉱物調達」のため、引き続きすべての調達先製錬所にRMAP認定の更新を呼びかけ、安心して安全なサプライチェーンの持続を目指していきます。



従業員とともに



人材に対する考え方

基本方針

千住金属工業グループでは、従業員は重要な財産であると考え、従業員一人ひとりの人権と個性を尊重するとともに、多様な人材が成長し活躍できる職場環境の整備に努めています。

● 人権の尊重

人権・労働に関する基本方針

千住金属工業グループでは、CSR基本方針およびCSR実践目標において、人権と労働に関する方針と目標を定め、経営の理念にある「実力・誠実・闘魂」を抱き、生き生きと働ける環境づくりに取り組んでおります。

また、ハラスメントは絶対にあってはならないという考えのもと、「ハラスメント防止教育」を行い、従業員に啓蒙しています。

公正な評価と自己申告制度

千住金属工業では、能力開発のための適切な指導と人材育成への活用のため、人事考課を年2回行い、社員の勤務成績および能力を公平・公正に評価し、昇格・昇給・賞与に反映しています。また、職場環境の改善を目的とした自己申告制度を設け、社員一人ひとりに仕事や職場環境について、どう考えどのよう望んでいるのか年1回アンケートを行い、社員がより一層活躍できるよう改善に取り組んでいます。

● 人材育成

千住金属工業グループでは、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しています。教育実施規定に基づき効果的なやり方を検討し、階層別研修や職能別教育訓練を実施しています。



はんだ付け技能検定

また、2020年度よりはんだ付けの品質・技能向上を目的とした「はんだ付け技能検定」を実施しています。社内はもとより将来的にはお客様向けにはんだ付けスクールを開催するなどの発展を目指し、千住金属工業グループの新しい文化として根付くよう今後も取り組んでいきます。

教育支援制度

千住金属工業では、意欲のある社員がより高度かつ先端の知識や技術を習得することを目的とする奨学資金支給制度を設け、大学・大学院への進学を支援しています。また、社員が自発的に自己研鑽に励み、より高度な技能や知識を習得することを支援するため、「特殊技能資格取得に関する助成」を行っています。

	階層別研修		職能別教育訓練	テーマ別・自己啓発	実地研修
	集合研修	通信教育			
上級管理者	マネージャー研修 (上級編)	考課者訓練 (新任)	実力管理者コース (新任)	はんだ付け技能検定	OJT
中級管理者	マネージャー研修 (初級編)				
初級管理者		実力管理者基礎コース (新任)	営業マン研修 上級編	英語	OJT
中堅社員	中堅社員研修	中堅社員上級編 中堅社員初級編	営業マン研修 初級編 営業技術職研修	海外拠点技術員研修	
新入社員	新入社員フォローアップ研修 新入社員研修	新入社員向け通信教育			

労働安全衛生

基本方針

千住金属工業グループは、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする安全衛生管理規定と安全衛生方針を定めています。

安全衛生方針

- ① 我々は労働基準法、労働安全衛生法に基づき安全衛生活動の充実を図り、快適な職場環境の形成を促進します。
- ② 会社は安全衛生管理体制を確立し、労働災害を未然に防止するために、必要な措置を組織・職制を通じて積極的に推進します。
- ③ 社員は法令及び会社が定める規則を遵守し、労働災害防止と健康保持増進に努めます。

● 労働安全衛生マネジメント

法令に基づき、各拠点で規模に応じた安全衛生管理体制を敷き、年間計画書を作成し活動目標と重点活動項目を定めて、計画書に従い安全衛生に取り組んでいます。

● 労働災害発生状況

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
災害度数率	0.49	0	0	0	0.62

※労働災害度数率：休業（休業1日以上又は身体の一部若しくはその機能を失う労働災害による死傷者）労働災害件数／延べ実労働時間×1,000,000

● 健康維持

千住金属工業では、法令に基づく健康診断および相談窓口設置等の他、社員の私傷病の治療に関する負担を軽減するため、会社負担によるがん保険への加入や一カ月間に医療機関で発生した医療費の一部を会社が負担する制度を設け、社員の自己負担を軽減しています。

各種制度	頻度・期間	内容
健康管理	一般健康診断	1回/年
	生活習慣病健診	2回/年
	特殊健康診断	2回/年
福利厚生	ストレスチェック	1回/年
	がん保険制度	25歳以上
その他	医療費会社負担制度	都度
	相談室利用	随時

● 安全教育

安全衛生に関する知識と技能の習得のため、従業員に以下の教育を随時行っています。

- ・雇入れ時教育訓練
- ・作業内容変更時教育訓練
- ・危険・有害業務従事者特別教育訓練
- ・職長教育訓練（職長教育訓練から5年経過した従業員を対象にしたリフレッシュ教育を含む）
- ・その他監督者安全衛生教育訓練
- ・危険・有害業務従事者に対する安全衛生水準向上のための安全衛生教育訓練
- ・有資格者への教育訓練（フォークリフト運転者等）

職場に応じたサポート

製造工場では、夏場の熱中症予防として塩分補給食品の配布や健康対策として牛乳の配布をするなど、従業員が健康・安全に働けるようサポートしています。



働きやすい職場づくり

基本方針

千住金属工業グループは、仕事と生活の両立のための支援や従業員相互の親睦および福祉の向上のための活動組織の運営など、従業員が生き生きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、勤怠管理システムによる労働時間と在社時間の把握による長時間労働の抑制・指導など、従業員が安心して働けるための様々な対策・改善を行っています。

仕事と家庭の両立支援

千住金属工業グループでは、従業員が仕事と家庭を両立し、安心して仕事ができるよう、育児・介護休業法に基づいた育児休業制度と出生時育児休業（産後パパ育休）、介護休業制度を設けています。また、当社は従業員の申し出による所定労働時間短縮の措置を講じています。実際に小さなお子様を持つ従業員が多くが利用し、子育てとキャリアを両立しています。



レクリエーション班によるマス釣り体験イベント

従業員相互の親睦および福祉の向上

従業員相互の親睦を図ることを目的として、「千友会」による班活動・レクリエーションを行っています。また、安全衛生委員会とは別に、職場環境改善や就業上の安全などを従業員を代表して会社に提起する「労務委員会」を設け、働きやすい安全な職場の実現と会社の発展に寄与すべく活動しています。

TOPICS

産後パパ育休の活用〈事例紹介〉

千住金属工業グループでは、2022年10月施行の育児・介護休業法の改正に伴う産後パパ育休（出生時育児休業）制度に則り、育児休業制度の見直しや育児休業・産後パパ育休に関する相談窓口の設置などを行い、男女ともに仕事と育児を両立できる職場環境の整備を進めています。

産後パパ育休を取得して 関西事業所 西脇工場生産課 藤本 昌孝

昨年12月に第三子が生まれました。会社から産後パパ育休についての案内があった際に、妻の希望もあり、育児休業を12月から1月にかけて4週間取得しました。育休中は、妻が新生児の育児、私は上の子どもの育児と、食事の支度や洗濯、買い物などの家事を主に行いました。慣れない家事を行いながらの子育てでは、予定通りに事が進まないことを実感し、想像以上に大変でした。普段は子どもたちと接する時間が限られていますが、一緒に過ごす時間が増えたことは、とても良かったと感じています。職場では、これまで男性が育児休業を取得したケースはありませんでしたが、申請をした際に気持ちよく受け入れてくれたことに感謝しています。



職場リーダーより

育児休業を取得する男性社員の割合は、今後増えると思います。たとえ繁忙期であっても、抜けた休業者の業務を周囲で柔軟にカバーできるように、職場として課員個々の力量を高められるよう意識していきます。

ダイバーシティ

基本方針

千住金属工業グループでは、人種、性別、経歴、年齢、価値観、家族構成、生き方など、様々な「違い」を尊重し、積極的に生かすことで、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに効果的に対応しています。また、従業員一人ひとりの可能性を信じ、能力が発揮できるよう、「幸せを感じ、より長く、安心して働ける、働きがいのある職場を実現する」ことを目的に、ダイバーシティに取り組んでいます。

女性の活躍推進

千住金属工業では、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性の活躍推進に取り組んでいます。

研修・セミナーの実施

ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を図っています。

ダイバーシティ勉強会の実施

ダイバーシティ勉強会では、毎年、ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を目的に毎回「従業員同士の違い」に焦点を当てたテーマを定め、参加者が経験や状況を話し合い、自分の考えやアドバイス、工夫を述べたりしながら「気づき」を得ています。また、従業員同士、従業員と会社の相互理解を深め、より働きやすい環境を整える機会を得る場としています。

2022年度は計5回の勉強会を実施しました。毎年定例メニューとしている新入社員の入社時および配属後半年が経過した後のフォローアップ勉強会では、入社時の不安や期待に関する意識共有に加え、配属後のモチベーション維持や働くことへの姿勢など積極的な意見交換を通じて、お互いの成長を確認し合うことでさらに刺激や気づきを促しました。

また、初めての試みとして、産業分析センターや千住技研などのグループ会社も勉強会に参加しました。様々な地域色や強み、それぞれの会社で働く従業員の高い誇りと企業価値を自覚し合い、千住金属工業グループの一員として強い結束を感じることができました。

障がい者の雇用

千住金属工業グループでは、以前より障がい者雇用に取り組んでおり、障がいのある方が安心して生き生きと働けるよう職場環境を整備しています。



ダイバーシティ勉強会の様子

TOPICS

ロックダウン時の従業員への支援

2022年4月の上海市ロックダウンにより、SMIC上海の従業員も住居から外出することが禁じられました。すべての物流が停止し、従業員の基本的な生活が保証できない状態になったため、SMIC上海の管理部門が食料品などの生活物資を宅配できるサプライヤーを独自に探し、従業員へ配給しました。また、長期のロックダウンによる従業員の不安や焦りの情緒を慰安するための、オンライントレーニングを実施しコミュニケーションをとることで軽減を図りました。





社会貢献活動



文化・教育・地域交流

従業員データ

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
従業員数					
国内 ※()内は短時間従業員数	1,731人	1,747人	1,761人	1,626人	1,638人
男性	1,177人	1,168人	1,164人	1,113人	1,115人 (1人)
女性	554人	579人	597人	513人	523人 (55人)
海外 ※()内は短時間従業員数	627人	631人	596人	622人	566人
男性	333人	336人	310人	320人	285人 (0人)
女性	294人	295人	286人	302人	281人 (0人)
計 ※()内は女性比率	2,358人 (36.0%)	2,378人 (36.8%)	2,357人 (37.5%)	2,248人 (36.3%)	2,204人 (36.5%)
正社員数					
国内	1,213人	1,259人	1,293人	1,314人	1,341人
男性	919人	949人	956人	971人	978人
女性	294人	310人	337人	343人	363人
海外	589人	516人	438人	576人	539人
男性	314人	293人	245人	300人	275人
女性	275人	223人	193人	276人	264人
計 ※()内は女性比率	1,802人 (31.6%)	1,775人 (30.0%)	1,731人 (30.6%)	1,890人 (32.8%)	1,880人 (33.4%)
契約社員数					
国内	518人	488人	468人	312人	297人
男性	258人	219人	208人	142人	137人
女性	260人	269人	260人	170人	160人
海外	38人	115人	158人	46人	27人
男性	19人	43人	65人	20人	10人
女性	19人	72人	93人	26人	17人
計 ※()内は女性比率	556人 (50.2%)	603人 (56.6%)	626人 (56.4%)	358人 (54.7%)	324人 (54.6%)
派遣社員数					
国内	—	—	—	—	232人
管理職					
国内	111人	123人	128人	184人	196人
男性	105人	116人	119人	167人	177人
女性	6人	7人	9人	17人	19人
女性比率	5.41%	5.69%	7%	9.2%*1	9.7%
海外	—	116人	85人	97人	86人
男性	—	74人	47人	55人	46人
女性	—	42人	38人	42人	40人
女性比率	—	36.21%	44.7%	43.3%	46.5%
採用状況					
男性	79人	47人	23人	60人	45人
女性	23人	18人	19人	25人	30人
計	102人	65人	42人	85人	75人
離職率 (入社3年後)	15.6%	16.9%	17.59%	13.5%	10.5%
各種休暇制度 (単体)					
平均有給休暇取得日数/年 (日)	9.8日	8.5日	9.08日	11.1日	13.6日
有給休暇取得率	62.63%	62.49%	58.2%	56.85%	77.02%
育児休業取得者数	12人	10人	22人	14人	24人 (8人)*3
育児休業復帰率	91.7%	100%	100%	93%	100%
男性従業員の育児休業等の取得率*2	—	—	—	—	10.52%
介護休業取得者数	1人	0人	1人	1人	3人 (2人)*3
介護休業復帰率	100%	100%	100%	100%	100%
労働時間 (単体)					
平均所定外労働時間/月 (h)	15.6時間	14.4時間	9.03時間	11.5時間	11.22時間
障がい者雇用 (単体)					
障がい者雇用人数	17人	16人	16人	17人	14人
障がい者雇用率 ※()内は法定雇用率	2.2% (2.2%)	2.1% (2.2%)	2.02% (2.3%)	2.2% (2.3%)	1.9% (2.3%)

*1 2021年度の国内管理職の女性比率については、算出の間違いにより修正しています。 *2 2022年1月1日～12月31日までの育児休業等の取得割合 (育児休業等取得した男性従業員の人数/配偶者が出産した男性従業員の人数) を算出しています。 *3 育児休業取得者数および介護休業取得者数の () 内は2022年4月1日～12月31日までの取得者数

都内区立中学校 職場体験学習

本社 | 2022.7.11 ~ 7.13



中村八幡宮例大祭「流鏝馬」神馬の奉納

栃木事業所 | 2022.9.18



冬休み親子工場見学・環境学習会

栃木事業所 | 2022.12.27



興玉神社の清掃

関西事業所 | 2022.5.20 / 2022.9.28 | 113名



工場周辺水路の草引き・清掃

関西事業所 | 2022.9.29 | 24名



「こども110番の家」活動

東北主管営業所 | 2022



学校への再生材の寄付

Senju Solder (Phils.) Inc. | 2022.12.19



フードバンク団体での作業支援

台湾千住電子股份有限公司 | 2022.4.15 / 2022.9.23 | 27名





文化・教育・地域交流

地域清掃活動

韓国千住金属株式会社 | 2022.12.31 | 10名



地域清掃活動

Senju Manufacturing Europe s.r.o. | 2022.6.30 | 18名



地域清掃活動

千住金属（上海）有限公司 | 2022.11.10 | 8名



都内市立中学校へのはんだ授業

本社 | 2022.7.14

郡山うねめまつりへの協賛

郡山営業所 | 2022.8.4 ~ 8.6

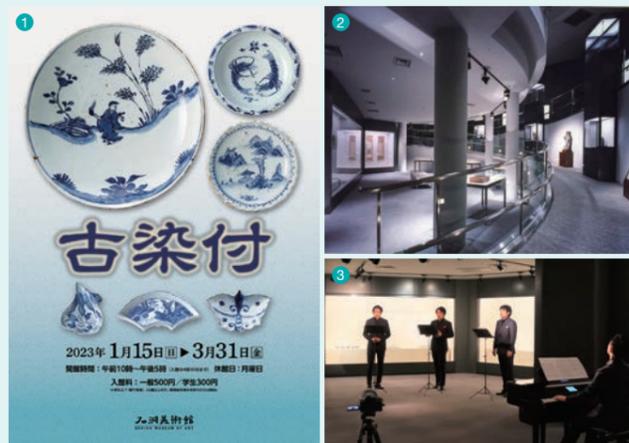
婦中町熊野神社への寄進

千住システムテクノロジー | 2022.7

石洞美術館

千住金属工業本社ビル内にある石洞美術館は、美術工芸を通じた国際間の文化交流、相互理解の促進、我が国の文化の向上を図るため、2006年4月に公益財団法人美術工芸振興佐藤基金によって設立されました。所蔵品は、故佐藤千壽名誉会長の収集したコレクションを核としており、美術館の名称は佐藤の雅号「石洞」から採っています。

今年は第51回伝統工芸日本金工展を2023年5月20日～6月8日に開催しました。また、「古染付展」を3回に分けて開催しており、PartⅠを2023年1月15日～3月31日に開催しました。今後の予定としてPartⅡを2023年9月1日～11月30日に、PartⅢを2024年1月16日～3月31日に行います。また、動画配信サービスYouTubeで「コンサートinミュージアム」の公演を配信しています。



① 古染付展 ② 館内 ③ コンサート in ミュージアム



自然環境保全

荒川水辺サポーターの活動

本社／草加事業所／産業分析センター | 2022.11.5 | 15名



ガードレール清掃

千住電子工業 | 2022.6.18 | 90名



森は海の恋人植樹祭への参加

千住スプリンクラー | 2022.6.5 | 4名



もおか環境パートナーシップ会議の活動

栃木事業所 | 2022.11.6 | 112名



砂鉄川へのヤマメ稚魚の放流

千住電子工業 | 2022.10.1 | 12名



立山弥陀ヶ原 植生復元作業への参加

千住システムテクノロジー | 2022.7 | 1名



寄付活動

寄付先	拠点	時期
貧困地区への寄付	千住金属（天津）有限公司	2022
ウクライナ難民への寄付	日商千住金属工業股份有限公司高雄分公司	2022.4.1
障がい者団体への寄付	台湾千住電子股份有限公司	2022.5.3
女性支援団体への寄付	台湾千住電子股份有限公司	2022.10.14
フードパントリーへの寄付	Senju Comtek Corp. / Senju America Inc.	2022.11.18

● 役員一覧



- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 代表取締役社長
① 鈴木 良一 | 検査相役
⑥ 坂口 和年 |
| 代表取締役常務
② 長谷川 友秀 | 理事
⑦ 大竹 基之
石井 泰博* |
| 常務取締役
③ 川又 勇司 | ⑧ 田中 節夫 |
| 取締役
④ 佐藤 有香
⑤ 奥野 哲也 | 副理事
⑨ 角屋敷 敏丸
⑩ 秋田 智
⑪ 今井 亮 |
| 監査役(社外)
佐藤 昭壽* | |

※撮影時、都合により欠席

● 取締役会と業務執行体制

取締役会

取締役5名と監査役1名、検査相役1名で構成され、関係法令および定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、代表取締役会長（または代表取締役社長）を議長とし、執行役員との任免と経営会議からの上程など重要事項の決議・承認を行います。取締役会の審議・決定の指標として、別途倫理規程、情報開示規程を定めています。

経営会議

取締役、執行役員等により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項（重大な懸念事項を含む）については取締役会に上程します。経営会議の審議・決定の指標として、別途各種規程、BCP管理規程、危機管理規程、情報セキュリティ規程を定めています。

執行役員制

執行役員制を導入しており、取締役会により選任された執行役員部門長が、所轄する部の分掌を統轄し管理を行っています。会社の事業計画に基づき所轄する部の事業計画を立案し、実行しています。また、担当役員として所轄する部の指導に当たり、重要事項を直接指揮しています。

役員の選任

	任期	選任方法
取締役	1年	株主総会にて選任
監査役	4年	
検査相役	1年*	取締役会にて選任
執行役員	1年	
理事／副理事	—	経営会議にて選任

※代表取締役社長の指名により、1年ごとの留任もある

● 監査監督体制

監査役・検査相役

監査役1名と検査相役1名を選任しています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役と検査相役は、取締役会に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすとともに法令に準拠した活動を行っています。

● 取締役・監査役・執行役員を紹介します

	氏名	執行役員	担当分野
代表取締役社長	鈴木 良一		
代表取締役常務	長谷川 友秀	○	営業
常務取締役	川又 勇司	○	開発
取締役	佐藤 有香		
取締役	奥野 哲也	○	製造
監査役(社外)	佐藤 昭壽		
検査相役	坂口 和年		
理事	大竹 基之	○	総務
理事	石井 泰博	○	経理、CSR
理事	田中 節夫	○	環境施設
副理事	角屋敷 敏丸	○	産機
副理事	秋田 智	○	
副理事	今井 亮	○	

リスクマネジメント

考え方、リスクマネジメント活動

千住金属工業グループは、サプライチェーンの上流に位置する企業の責任として、下記の想定されるリスクに対処するための専門部署・委員会を設置し、リスクに対する未然防止および損失を最小限に抑える対策を実施しています。

想定されるリスク

- 地震や台風などの自然災害リスク
 - 情報漏洩や不正アクセスなどの情報セキュリティリスク
 - 特許侵害や技術流出などの知的財産リスク
 - ハラスメントなどの人権・労働に関するリスク
 - 新型インフルエンザやCOVID-19などの感染症リスク
 - 安全保障貿易などの輸出管理リスク
 - 気候変動問題や廃棄物による汚染などの環境リスク
- など

● 事業継続への取り組み

各種リスクの評価・分析・対策を行い、安定供給のための生産バックアップ体制を含む、被害を最小限にとどめ、事業の継続能力を高めるためのリスクマネジメントの構築と、生産体制の早期復旧を図るための推進体制、「設備等災害復旧実施計画書」などの行動計画を定めています。また、災害などの緊急事態により生産困難な拠点があつた場合、国内・海外の他拠点と連携して生産が継続できるようバックアップ体制の強化を行っています。

安定供給のための生産バックアップ体制



防災訓練の定期実施

千住金属工業グループでは、地震や火災などの災害から従業員の生命を守るため、消防署や警備会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・救命講習（AED講習）を毎年実施しています。また、管轄消防署が実施している総合防災訓練に参加し、地域社会との連携強化に努めています。



避難訓練

TOPICS

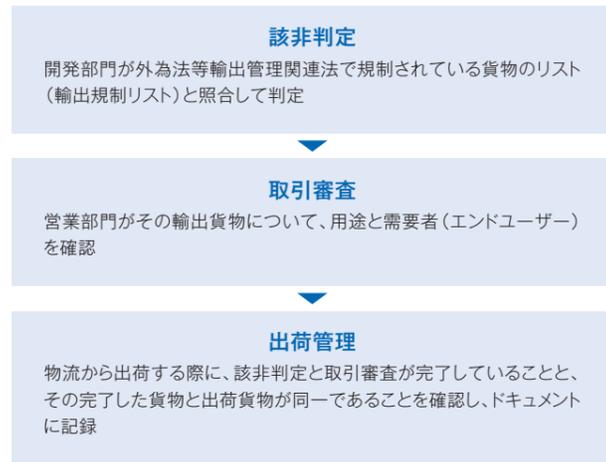
マレーシア豪雨を受けての対策

2021年12月のマレーシア豪雨により、SMICマレーシアの工場内も約60cmの浸水があり、雨が止んだ後、水が引き始めるまで約8時間、水が引き始めてから工場に近づけるようになるまで約16時間かかりました。今回の被害を踏まえ、SMICマレーシアでは工場敷地周辺に止水壁、出入口に止水板と排水ポンプを設置し、浸水の防止と早急な復旧ができる対策を行いました。



● 安全保障輸出管理

千住金属工業グループは、対外取引の発展と国際社会の平和・安全の維持を目的とした法律である外国為替及び外国貿易法(外為法)などの法令を遵守し、大量破壊兵器などの不拡散、通常兵器の過度の蓄積防止、各国間の貿易摩擦などの問題に対し、輸出に関して管理を行うことにより秩序を保っています。適切な輸出管理を実施するために、安全保障輸出管理の最高責任者に代表取締役社長を置き、その直下に安全保障輸出管理本部を設置し、輸出管理体制の整備と充実を図っています。また、2020年度よりCOVID-19禍における対策としてセルフチェックと対面による各部署への監査を実施しています。



規程類や教育実施に関する届出や、内部監査を年1回実施することで、規程遵守を維持しており、経済産業省より安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業として認知されています。*

※経産省による「輸出管理内部規程(CP)を作成し実施している企業名の公表」より
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/compliance_programs_pdf/20230403_kouhyougenkou.pdf
(制作時点における最新版)

安全保障輸出管理教育

当社では毎年、該非判定や取引審査、出荷管理の担当者向けに、安全保障輸出管理の教育を行っています。(2022年度は48部署に実施)

また、経営陣を対象とした教育や、関連法令を分かりやすく説明した教育資料を作成し、各部署への教育も行っています。

● 知的財産

千住金属工業グループでは、研究開発・製造・広報部門より、多くの発明、ノウハウ、商標等が生み出されています。これらの知的財産を保護・活用するために、知的財産権制度を有効に利用して、権利化・秘匿化を進めています。また、他者の知的財産権を尊重しながら独自の技術開発に力を入れています。

これらの知的財産活動により千住金属工業グループの事業を支え、持続可能な社会を実現することへの貢献を続けてまいります。



知的財産教育

千住金属工業グループでは、特許・商標・著作権等のテーマ毎に勉強会・レクチャーを行い、権利取得、ノウハウ管理、権利保護等の取り組みを行い、開発・製造・販売リスクに対する管理向上に努めています。

特許権保有状況

千住金属工業グループでは、積極的に国内特許・海外特許を申請し、権利化を図っています。



● 原料における複数購買体制の推進

BCPに対応するため、これまで当社において複数購買が難しいとされていた化学合成品(例:フラックス)の原料についても、複数購買体制を整えました。

既存品の原料については、入念な調査と性能検証を繰り返し実施したうえで、複数の購買経路を確保しております。

また、新規製品については製品設計段階から複数購買可能な原料を選定することで安定供給の体制を整備しています。



● 企業秘密管理・個人情報保護

千住金属工業グループは、「企業秘密管理規定」「個人情報保護規定」を定め、会社が保有する個人情報や、お客様・取引先様の情報などを管理し、機密情報の漏洩防止に努めています。

また、GDPR(EU一般データ保護規則)などの法規に関しても適切な対応を行っています。

コンプライアンス

基本方針

千住金属工業グループでは、経営の理念をコンプライアンスの要と考え、CSR基本方針に基づいたコンプライアンス基本方針と実践目標を定めています。従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの方針・目標・規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。また、千住金属工業グループのCSR基本方針およびCSR実践目標において、公正取引・倫理事項を遵守し、運用しています。

● コンプライアンス活動の状況

千住金属工業グループでは、事業活動に関わる各種法令を遵守するため、各種教育(CSR教育、環境教育、購買先様への調達方針教育、安全保障輸出管理教育)と内部監査、サプライヤー監査を実施しています。

内部監査においては、業務監査部門による健全な企業コンプライアンス維持を目的とした、外為法に基づく「安全保障輸出監査」、RBA行動規範に基づくCSR基本方針・実践目標を監査基準とする「CSR内部監査」、社内外の機密情報の取り扱いに関する「情報セキュリティ監査」を国内・海外の全拠点に対して実施しています。2020年度よりグループ会社を含む国内拠点においては、COVID-19禍における対策として書面によるリモート監査を実施しています。また、2022年度は本社圏(本社・草加事業所)に限定して対面監査を実施しました。各監査における是正事項は各部署にて速やかに対策が講じられ、継続的なマネジメントシステムの改善へつなげています。これらの教育や監査により、2022年度は重大な法令違反は発生していません。

2022年度監査実績 (単位:件)

監査対象	業務監査	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	15	33	19
グループ会社(国内)	13	3	3
グループ会社(海外)	0	0	0
委員会、その他	0	0	0
合計	28	36	22

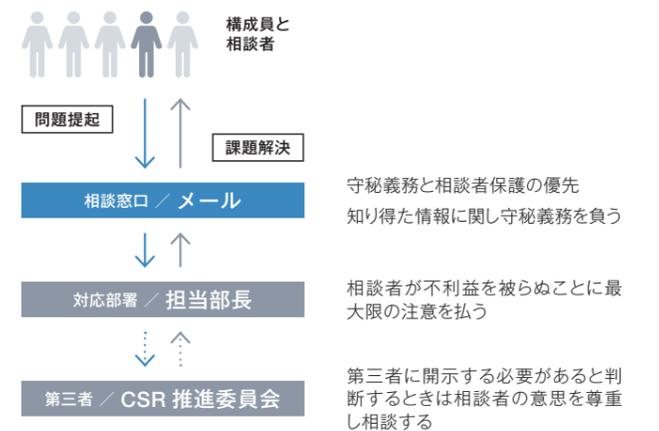
● 情報セキュリティ

近年発生しているサイバー攻撃による被害に鑑み、情報セキュリティの管理運用を一層強化しています。情報システム部門は基本的な行動計画を策定し、被害が発生した際に封じ込めたり脅威を検知する能力を向上させ、迅速な復旧ができるようになっています。サイバー攻撃の手法は日々変化していますが、従業員にルールや脅威に対する教育を定期的に行い、情報セキュリティの重要性を啓蒙しています。

社内通報窓口制度(スマイルメール)とお問い合わせ窓口の設置

人権に関する問題(ハラスメント等)やコンプライアンスに関する問題(法令や社内規程違反、企業倫理や社会的規範等の問題)に対して、全従業員が匿名で相談・通報できる専用の内部通報窓口(スマイルメール)を設置し、不正行為等の早期発見と是正を図っています。また、ステークホルダーが意見・要望・苦情などを申し立てることができるお問い合わせ窓口をWebサイトに設置しています。

提案	苦情	要望	意見
相談	情報	いじめ	ハラスメント

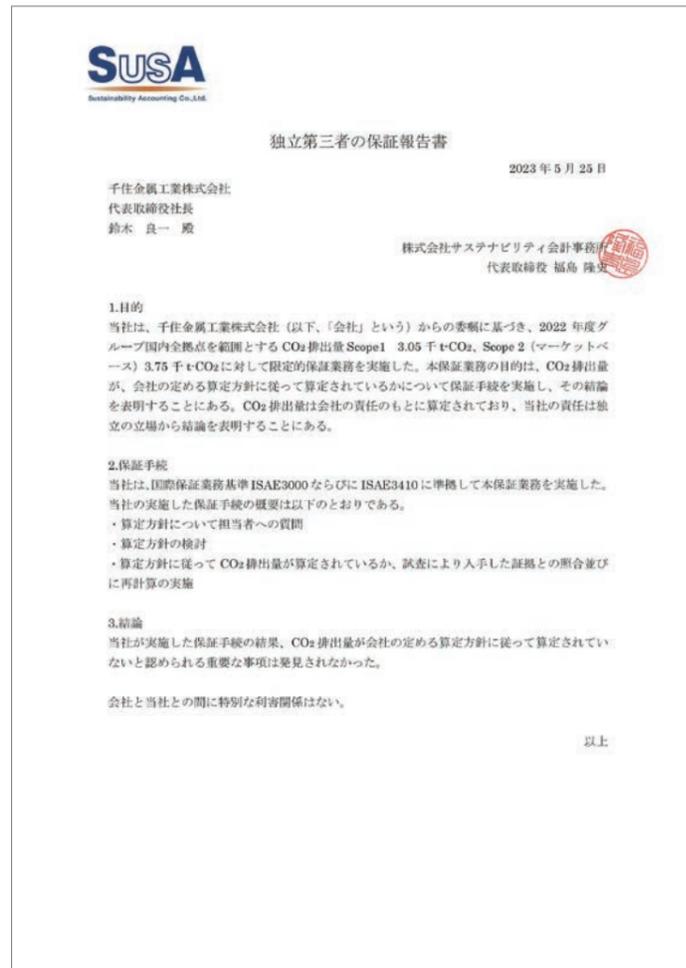


● CSR 監査

当社におけるCSR監査は、RBA-VAP監査、お客様によるCSR監査、CSR内部監査があります。お客様の要求事項およびRBAの基準に基づいた監査を行うことで、労働・安全衛生・環境・倫理・マネジメントシステムにおける世界標準のレベルが保たれる仕組みを構築しています。

	頻度	対象拠点	内容
RBA-VAP監査	2年ごと	中期計画に基づく重点対象拠点	RBAによるVAP (Validated Assessment Program) 監査
お客様によるCSR監査	お客様からの要望に応じて	お客様からの要望があった拠点	お客様の監査基準に基づいて実施
CSR内部監査	毎年	グループ会社を含む全拠点	RBA行動規範に基づくCSR基本方針・実践目標を監査基準として業務監査部門が実施

独立第三者の保証報告書



千住システムテクノロジー設立20周年

新たな価値創造につながる 独創的な技術開発

富山県にある千住システムテクノロジー株式会社は、千住金属工業グループとして2003年の設立以来、自動はんだ付け装置メーカーとしてオリジナル製品を生み出し続け、2023年に20周年を迎えます。これまでに取得した特許は10件以上。この確かな開発力と、長年培われてきた技術力をベースに、近年では千住金属工業における低温ソルダーリングソリューションの材料、工法、そして当社の装置技術の三位一体でお客様に提供する「MILATERA」をキーワードに低消費電力を可能とする低温はんだ付け装置の追求を求め日々研鑽に励み、唯一無二の独創的な自動はんだ付け装置を提案してまいります。



確固たる技術力で進化を続ける「ソルゼウス」

SOLZEUS MPF Series



SOLZEUS LPD Series



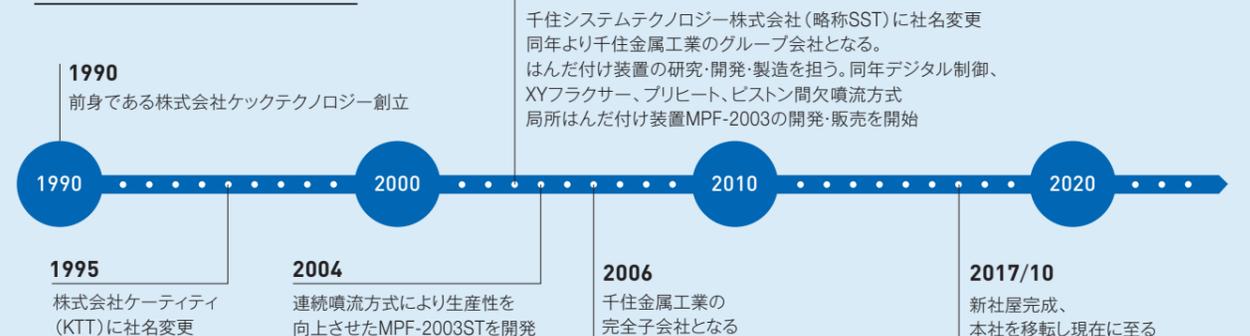
SOLZEUS（ソルゼウス）の名前の由来はSOLDER（はんだ）とギリシャ神話に登場する主神ZEUSを組み合わせた造語で、「はんだ付けの神」をあらわしています。

約2年の開発期間を経て2000年に生み出された独自の連続フローポンプにより、安定した連続噴流を実現。はんだ付け品質を劇的に高めることに成功しました。リリースから20年経過した現在においては、品質が非常に高いことで知られる車載電子機器業界にも採用されるなど、数多くの実績をあげています。

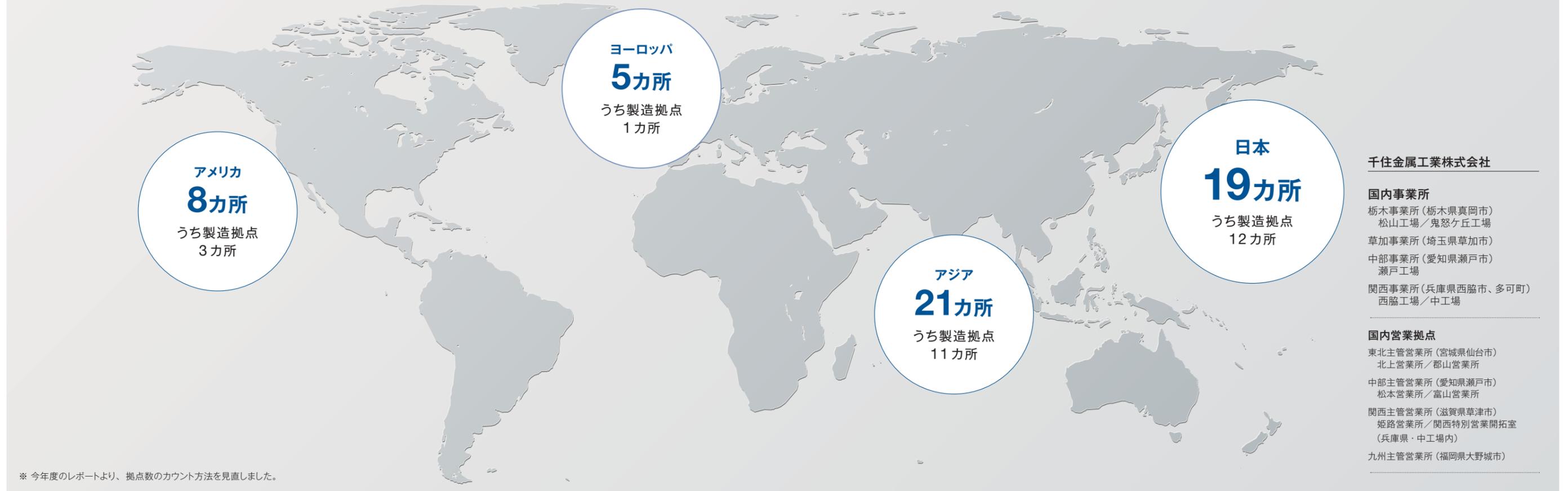
この確固たる技術をベースに、現在は局所はんだ付けに対応するMPFと、パレット治具を使用し全面ディップに対応するLPDの2シリーズを展開しています。

今後も進化を続け、自動車の電動化・電子化に貢献していきます。

千住システムテクノロジーの沿革



会社概要・ネットワーク



- 千住金属工業株式会社**
- 国内事業所**
 栃木事業所 (栃木県真岡市)
 松山工場 / 鬼怒ヶ丘工場
 草加事業所 (埼玉県草加市)
 中部事業所 (愛知県瀬戸市)
 瀬戸工場
 関西事業所 (兵庫県西脇市、多可町)
 西脇工場 / 中工場
- 国内営業拠点**
 東北主管営業所 (宮城県仙台市)
 北上営業所 / 郡山営業所
 中部主管営業所 (愛知県瀬戸市)
 松本営業所 / 富山営業所
 関西主管営業所 (滋賀県草津市)
 姫路営業所 / 関西特別営業開拓室 (兵庫県・中工場内)
 九州主管営業所 (福岡県大野城市)

会社概要

千住金属工業株式会社 / 千住金属工業グループ
 SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.
 DUNS# 690663091

設立 1938年4月15日
 本社所在地 〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
 代表取締役社長 鈴木 良一

事業内容

- 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- 金属の粉末および軸受の製造・販売
- はんだ付け用溶剤ならびに接着剤の製造・販売
- はんだ付け装置の製造・販売
- 消火装置部品の製造・販売 (関連会社事業)
- 前記に関連する機械設備の製造・販売
- 社内派遣業

事業規模

売上高(連結) 96,846百万円 (2022年4月1日~2022年12月31日)
 資本金(単体) 400百万円
 従業員数(連結) 2,204人 (2022年12月31日時点)

主要関連会社一覧

- ▶ 日本**
 株式会社産業分析センター
 千住スプリングラー株式会社
 千住電子工業株式会社
 千住技研株式会社
 千住システムテクノロジー株式会社
- ▶ ヨーロッパ(ドイツ、チェコ)**
 Senju Metal Europe GmbH
 Senju Manufacturing Europe s.r.o.
- ▶ アジア**
 Senju (Malaysia) Sdn. Bhd.
 Senju Trading (M) Sdn. Bhd.
 Senju (Thailand) Co., Ltd.
 Senju Solder (Phils.) Inc.
 北京千住消防器材有限公司
 千住金属(天津)有限公司
- ▶ アメリカ**
 Senju America Inc.
 Senju Comtek Corp.
 Senju Fire Protection Corp.
- 天津千住電子有限公司
 上海千寿企業管理諮詢有限公司
 千住金属(上海)有限公司
 千住金属(惠州)有限公司
 千住金属(香港)有限公司
 千住電子材料(香港)有限公司
 台湾千住電子股份有限公司
 日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司
 韓国千住金属株式会社

本社



国内事業所



国内関連会社



編集後記

「SMIC CSR REPORT 2023」をお読みいただき、ありがとうございます。当レポートは、ステークホルダーの皆様へ千住金属工業グループの事業や取り組みをご理解いただくことを目的として、2012年より発行しています。

今号の特集では、自然災害やパンデミックなど予測困難な環境変化に対しても、グローバルなBCP体制によって供給を継続できた事例を取り上げました。このような取り組みをご紹介することで、ステークホルダーの皆様の安心や信頼に繋がれば望外の喜びでございます。

また今号では、「SMICグループの目指す姿」(P5)を全面的に見直し、当社の理念や取り組み、事業活動などの位置づけや重要性をより具体的に表現することで、当社グループを体系的にご理解いただけるように努めました。これからも2020年に掲げました「環境ビジョン2050」をはじめ、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを通じて、持続可能な社会に貢献してまいります。引き続き、千住金属工業グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

千住金属工業グループ
 千住金属工業株式会社 CSR部